

JICA 筑波 PROFILE

独立行政法人 国際協力機構
筑波センター



理事長メッセージ

JICAの理事長に就任し、3年が経過しました。この間、英国のEU離脱決定、米国のトランプ政権の誕生、一帯一路構想に見られる中国の台頭など、世界の秩序に大きな影響を及ぼす動きが世界の各地で見られます。第二次世界大戦後に続いてきた国際協調体制は大きな岐路に立たされています。

一方で、紛争や過激主義、貧困や格差、難民の急増と長期化、感染症や自然災害など、複雑で相互に関連する課題が、国境を越えて地球上の多くの人々の命と尊厳を脅かし続けています。世界とのつながりの中で生きる日本にとって、世界が平和で安定し、繁栄することは日本の国益そのものであり、そのための国際協力は日本の存立と不可分です。

この意味で、2015年の国連サミットにおいて合意した「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に向けた取り組みは、国際社会で日本が存在感とリーダーシップを発揮し、国際協調体制を維持発展させていく、またとないチャンスです。それだけに、日本のODAを実施する総合的な開発協力機関である私たちJICAの責任は重大であり、国内外の様々な立場の方々とともに、開発の恩恵から誰一人取り残さない世界の実現に向けた国際協力を積極的に取り組んでいく所存です。

JICAは、人間の安全保障と質の高い成長を国際協力活動の任務とし、その実施に際しては、相手国の立場を尊重しつつ、対等な関係で相互に学び合う姿勢を貫いてきました。今後も、「信頼で世界をつなぐ」というビジョンの下、人々や国同士が信頼で結ばれる世界を作り上げていくことを目指します。同時に、国際協力は、日本自身の成長発展にも資するものでなければなりません。日本の経験や知見を、世界の貧困削減や経済成長に活用できれば、日本の存在感は更に高まります。JICAは、日本政府、地方自治体、民間企業、市民社会、大学・研究機関など様々な方々と連携した開発協力の実施を進めていきます。

その中で重視しているのが、「JICA開発大学院連携」です。日本は非西洋から先進国となった最初の例であり、伝統と近代を両立させ、自由で豊かな民主的な国を作り上げた、途上国の発展のベストモデルの一つです。また、日本のODAはアジアを中心に途上国の発展に大きく貢献してきました。こうした経験や知見から、日本は世界の中で開発学をリードする国となり得ると考えます。「JICA開発大学院連携」では、開発途上国の発展を支えるリーダーとなる人材を日本に招き、国内の大学と連携しつつ、欧米とは異なる日本の近代の開発経験と、戦後のドナーとしての知見の両面を学ぶ機会を提供します。

2016年7月に、バングラデシュで発生した「ダッカ襲撃テロ事件」にて、同じ志をもって国際協力を尽力されていた7人の大切な方々の尊い命が奪われました。このような痛ましい事態を二度と繰り返さぬよう、今後も、事業関係者の安全第一に、安全対策の不断の見直しと改善に、最大限、取り組んでまいります。

2018年10月、JICAが日本の政府開発援助(ODA)を一元的に担う「新JICA」になってから、10年の節目を迎えました。これからも、日本の皆様からの信頼と

世界に対する責任をあわせ持ち、日本を代表する開発協力機関の理事長として強い使命感をもって業務に臨む所存ですので、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



国際協力機構 (JICA)
理事長 北岡 伸一

目次

JICA 筑波へようこそ	3
研修員受入事業	4
JICA 海外協力隊事業	5
草の根技術協力事業	6
開発教育支援事業	7
中小企業・SDGsビジネス支援事業	8
JICA 筑波の施設紹介	9
アクセス	10

ODAとJICA

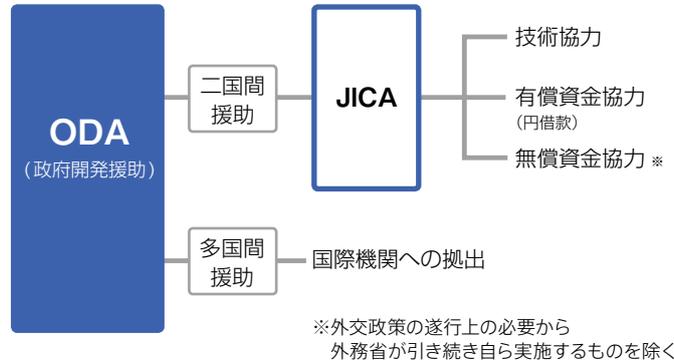
日本は、1954年にコロンボ・プラン^{※1}に加盟して以来、「国際社会の平和と安定及び繁栄の確保により一層積極的に貢献すること^{※2}」を目的に、政府開発援助 (ODA: Official Development Assistance) として、開発途上国に資金的・技術的な協力を実施してきました。

JICAはODAのうち、国際機関への資金の拠出を除く、二国間援助の3つの手法、「技術協力」「有償資金協力」「無償資金協力」^{※3}を一元的に担っています。世界最大規模の二国間援助機関であるJICAは、約90カ所にのぼる海外拠点を窓口として、世界約150の国・地域で事業を展開しています。

^{※1} コロンボプラン: 南アジア、東南アジア、太平洋地域諸国の開発援助のために1950年に設立された国際機関。スリランカのコロンボに事務局がある。

^{※2} 2015年2月策定、開発協力大綱より。

^{※3} 機動的な実施の確保その他外交政策の遂行上の必要に基づき、外務大臣が自ら行うものとして指定する無償資金協力を除く。



JICAの国内拠点の役割

JICAは、東京の本部に加え、各地域に国内拠点を設置しています。

国内拠点は、JICAの国際協力の重要な現場です。開発途上国から来日する研修員に我が国の経験・技術を学ぶ機会の提供や、ボランティアの訓練実施を主な目的としています。また、地域の人々との交流を深める場にもなっています。また、JICA事業や国際協力に関する情報提供、グローバル人材の育成支援、自治体やNGO、大学、民間企業などと連携した国際協力事業を幅広く推進しています。

国内拠点は、開発途上国と日本の各地域を結び架け橋として、地域の特色を活かした国際協力を推進するとともに、国際協力を通じて地域の発展にも貢献する活動を進めています。

国内機関 ()内は各国内機関の所轄地区です。

-
- ① JICA地球ひろば
 - ② JICA北海道 (札幌/ほっかいどう地球ひろば・帯広)
 - ③ JICA東北 (青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県)
 - ④ JICA二本松 (福島県)
 - ⑤ JICA筑波 (茨城県・栃木県)
 - ⑥ JICA東京 (群馬県・埼玉県・千葉県・東京都および新潟県)
 - ⑦ JICA横浜 (神奈川県・山梨県)
 - ⑧ JICA駒ヶ根 (長野県)
 - ⑨ JICA中部/なごや地球ひろば (静岡県・岐阜県・愛知県・三重県)
 - ⑩ JICA北陸 (富山県・石川県・福井県)
 - ⑪ JICA関西 (滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県)
 - ⑫ JICA中国 (鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県)
 - ⑬ JICA四国 (徳島県・香川県・愛媛県・高知県)
 - ⑭ JICA九州 (福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県)
 - ⑮ JICA沖縄 (沖縄県)

JICA筑波へようこそ

茨城県、栃木県も元気にする国際協力

開発途上国の支援をしているJICAの施設がつくば市にあるのは何故？ 何をしているの？ そんな疑問をお持ちの方も多いと思います。

JICAは40年以上に亘り、技術協力や資金協力など様々な国際協力を実施しており、日本の発展、世界の発展とともに事業展開も変化し、拡充してきました。

開発途上国のリーダーになってゆく人々が日本で学び、日本の技術のみならず、社会や文化も知って頂くことができる「研修員受入事業」は、JICAの技術協力の柱の一つであり、毎年1万人以上のリーダーとその候補者たちが日本全国で研修に励んでいます。

JICAの国内拠点はこの「研修員受入事業」実施の現場であり、JICA筑波では毎年約800名の研修員の方々が農業や防災などの分野で、地域の皆様のご協力を得ながら学んでいます。

一方で、日本の国際協力では「日本も元気にする」工夫が求められています。日本全国で培われた技術や知見が開発途上国の人々に活用され、彼らと日本社会が繋がるネットワークが拡充されることで日本各地の経済や文化の国際化・活性化にも役立つように、いわゆるウィンーウィンの協力になる、そんな形でお役に立てないか、JICAは考えています。

JICA筑波は茨城県と栃木県を担当し、研修事業のほか、草の根技術協力、中小企業・SDGsビジネス支援、開発教育支援、JICA海外協力隊など様々な国際協力の実施を通じて開発途上国と地域の皆さんとの繋がりの場となれるよう願っています。

JICA筑波 所長



JICA筑波の所管地域

茨城県、栃木県

JICA筑波の業務



研修員受入事業

海外から日本の技術や知見を学ぶ研修員を受入れています。



JICA海外協力隊事業

青年海外協力隊等への参加をお手伝いします。



草の根技術協力事業

NGO、大学、自治体等団体の国際協力参加をご支援します。



開発教育支援事業

世界のことを知り、関心を持っていただけるよう機会を提供します。



中小企業・SDGsビジネス支援事業

企業と途上国の仲介役として企業の海外展開をお手伝いします。



専門家から個別指導を受ける研修員



課題別研修「小農の生計向上のための野菜生産技術」JICA筑波温室での生育状況観察(国際耕種株式会社)



課題別研修「稲作技術向上」稲栽培のための土壌養分の分析・観察



課題別研修「地震学・耐震工学・津波防災」建築研究所強度実験棟の見学(国立研究開発法人建築研究所)

60年にわたる農業分野の 実践的な研修経験と 研究学園都市の知見

JICA筑波では、開発途上国から年間約800人の行政官、技術者、NGO関係者等を受入れ、全国有数の農業産出額を誇る茨城県の農業分野の人材やノウハウを活かした農業研修や筑波研究学園都市の研究機関、大学の協力を頂き最先端の科学技術を提供する研修、JICA筑波の圃場、実習・実験施設を用いた実践的な研修等、80コース以上の研修を行っています。

また開発途上国の開発の中核を担う人材を大学の修士・博士課程で学ぶ留学生として年間約70人受入れています。日本の経験や知見を学んだ研修員が、将来、母国の経済発展の原動力として活躍し、また親日家として日本との架け橋となることが期待されます。

タンザニアの米の 増産・生産の安定を目指して

日本では、稲の栽培技術や農家への普及方法など数多くの新しい知識や技術を得ることができました。今は日本での学びをタンザニアで農家や所属先の同僚たちに伝えています。自国の稲作の課題改善、収穫量の増加、農家の生活の向上に貢献していきたいです。



ピーター・アルフレッドさん
(タンザニア・稲作技術向上
コース 帰国研修員)



染谷情佳さん (モザンビーク・理科教育)

JICAは皆さんの海外への一歩を応援します!

JICA海外協力隊員は、開発途上国に派遣中、それぞれが持つ知識・経験・技術を活かして現地の人々と共に暮らし、現地の人々と同じ目線で原則として2年間の活動を行います。日本とは異なる気候風土・文化、生活の厳しさを乗り越えながら人々との繋がりや異なる価値観を認め合うことの大切さを学ぶ

ことになるでしょう。そして帰国後もそれぞれの場で「日本も元気にする」活躍が期待されています。JICAは、開発途上国でのボランティア活動に関心を持つ皆様が一歩を踏み出すお手伝いをしています。



松本英徳さん
(ウガンダ・自動車整備)



矢野明宏さん
(パプアニューギニア・農業機械)



簗田萌さん
(パラグアイ・バドミントン)

途上国での経験を国内の地域活性化に活かす

ガーナ共和国北部に位置する村「カレオ」の高校で化学教師をしていました。

教師として未熟であり、地域のことを全く知らない私を優しく受け入れ、助け、成長させてくれた同僚や地域の方々には心から感謝しています。

帰国後は、彼らから学んだことを地元「水戸」やそこに住む外国人のために活かして働きたいと思い、水戸市役所に勤めました。現在は、スポーツ課で各種スポーツイベントに携わっています。今後は、協力隊の経験を活かしながら、地域貢献に努めたいと考えています。



永井文博さん
(ガーナ・理数科教師)

草の根技術協力事業



Partnership



ブータン王国における循環型有機農業による地域創成事業 (NPO法人民間稲作研究所/栃木県河内郡)



コスタリカ国「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業」(自分たちでできる生活改善策としてバイオ庭園の造成)



モンゴル国「思春期からの健康なライフスタイル構築のための持続可能な仕組みづくりプロジェクト」(思春期ピアカウンセリング研修)



スリランカ国「紅茶プランテーション農園における青年層を活用した学童補習活性化」(農園の子供の課外活動)

「なんとかしたい」その熱意と得意技が開発途上国に必要とされています

草の根技術協力事業は、日本のNGO、大学、地方自治体などの団体が開発途上国に対して行う技術移転活動をJICAが支援し、両者が共同で実施する事業です。初めて途上国支援を行う団体向けの「支援型」、今より大規模な活動を行いたい団体向けの「パートナー型」、日本の地域や経済の活性化を目指す自治体向けの「地域活性化特別枠」があります。

各団体の熱意と技術そして経験がまとった提案をもとに実施されるため、現地の人たちと一緒に、団体の「熱意と得意技」を途上国の発展と住民の生活向上に直接役立てることができます。茨城県及び栃木県からは、農業、保健医療、廃棄物、生活改善などの分野で、現地での技術指導や日本での研修を行っています。

未開のカカオ生産地で農家の収入向上を支援する

インドネシアのゴロンタロ州でカカオの発酵技術と加工品の質の向上を支援しています。発酵するとチョコレートの風味が良くなるカカオ豆ですが、現地では発酵させた豆が発酵させない豆と同じ価格で仲買人に買い取られています。この事業では、発酵カカオ豆を従来よりも高値で買い取り、国内外で販売される仕組みを作ることで農家の収入向上を目指します。つくば市ではカカオ加工品と農産物等を組み合わせた製品を開発する予定です。



中島克也さん
(東京フード株式会社 研究所商品開発部長)

開発教育支援事業



JICA筑波の施設内で研修の様子を見学できます

異文化に触れ、「世界」を知り、 自分ができていることを知る

開発教育支援事業では、児童・生徒・学生の皆さんや教育現場で働く方々に世界の問題や国際協力について知り、考えるためのプログラムを用意しています。

海外に行かなくても、私たちの「普通」や「当たり前」を別の視点から眺めてみれば、心の扉を少しだけ開けてみれば、いつもと違う世界が広がるかもしれません。

過疎化、ジェンダーの問題、自然災害、環境問題等、日本にも途上国と共通する課題があります。私たちの生活には国際協力のヒントがたくさん詰まっています。

知らない国の文化や生活の話の聞いたり、外国の人と交流したり、日本と途上国のつながりを知ったりすることで、あなたにできる国際協力を見つけてみませんか？



途上国での生活やボランティア体験談を学校現場に「出前」し、異文化を感じられる「国際協力出前講座」



開発教育/国際理解教育の授業実践例や参加型手法・ワークショップを学べる「国際理解教育実践セミナー」

「施設訪問」で世界を体験!

JICA筑波では、開発途上国の暮らしの現状や、地球が抱える問題、国際協力の実情などを、見て・聞いて・さわって体験できる展示と、途上国での活動体験談や開発教育教材を使った参加型体験学習やワークショップを組み合わせたプログラムを実施しています。

国際理解教育だけでなく、キャリア教育、グローバル人材育成の一助として、学校の社会見学や修学旅行、教員研修等でもご活用いただけます。



国際理解ワークショップ体験参加型学習で活動しながら、主体的に学べます



途上国での開発援助・ビジネスに従事したいと考えている学生を対象にした「大学生・大学院生向け国際協力理解講座」

中小企業・SDGsビジネス支援事業



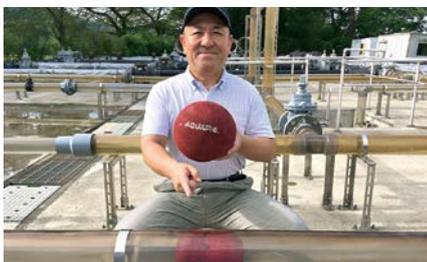
ネパールの農村地域にて軽水力発電機による安定的な電力供給を目指して (株式会社茨城製作所/茨城県日立市)



茨城伝統のほしほも技術でタンザニアの農家の生計向上
(株式会社照沼勝一商店/茨城県那珂郡東海村)



インドネシアで有効利用されていない縞タコの加工技術の実証
(株式会社あ印/茨城県ひたちなか市)



特殊な発泡ウレタンの球体で水道管洗浄
(中里建設株式会社/栃木県佐野市)

茨城・栃木から 途上国ビジネスの舞台へ

茨城・栃木は首都圏の北部に位置し、南北縦貫、東西横断する広域交通ネットワークを有しています。これにより、多様で高度なものづくり産業と科学技術の集積地となっています。また、両県とも全国有数の農業生産額を誇っています。茨城・栃木には、こうした豊富な地域資源を活かしたユニークな企業が多くあります。

途上国に進出したい企業と日本の技術

を必要とする途上国。JICAは長年ODAで培った途上国政府とのネットワークや情報で、企業と途上国の仲介役として、企業の海外展開のお手伝いをします。JICAは企業のステップに応じた様々な支援メニューをご用意しています。途上国はその技術を必要としています。茨城・栃木から途上国でのビジネスを目指しませんか。

ネパールの農村に灯りをともし

東日本大震災で会社が被災し、灯りがなく、携帯電話も充電できない不安な日々を送りました。この経験から、商用電源系統から独立した再生可能エネルギーのあり方について深く考えるようになりました。無電化地域も多く残るネパールの農村部に、これまで培った技術を生かした軽水力発電機が設置できるようになれば、学校やコミュニティに安定した電力が供給できます。農村に灯りをともしことで生活水準向上に貢献します。



菊池伯夫さん(株式会社茨城製作所代表取締役社長・写真左から二人目)

JICA筑波の施設紹介

以下の施設は一般公開しています。イベント期間中以外も営業時間内ならご利用可能です。

ご利用の際には、管理棟フロントまたは研修棟受付にて入館手続きをお願いします。

研修棟 2F 第1図書情報室

【開室時間】月曜日～金曜日 13:00～18:00
 【休室日】土曜・日曜・祝日・年末年始・年度末日
 開発途上国のための技術研修に必要な和書・洋書・雑誌（主に農業・農村開発分野）や英文の日本文化紹介の資料があります。

管理棟 3F 第2図書情報室

【開室時間】月曜日～金曜日 10:00～12:00
 【休室日】土曜・日曜・祝日・年末年始・年度末日
 国際理解教育、開発教育の資料・教材や世界の絵本があります。

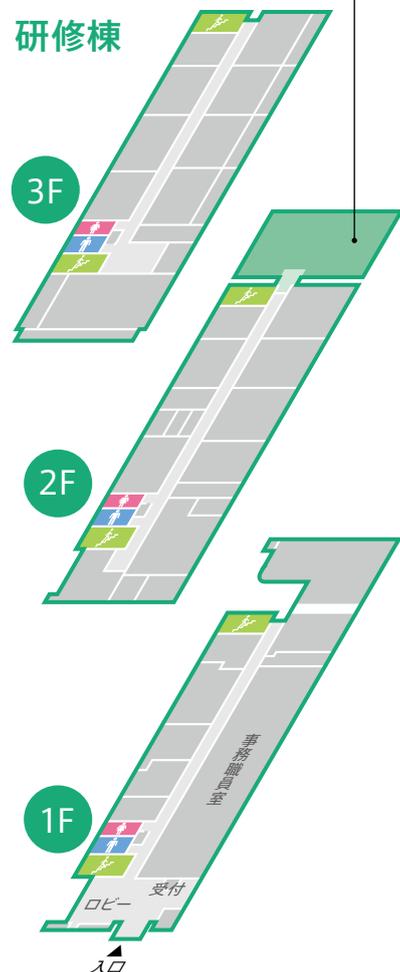


どなたでも自由に閲覧が可能です。高校生以上の方または団体は登録のうえ資料を借りることもできます。

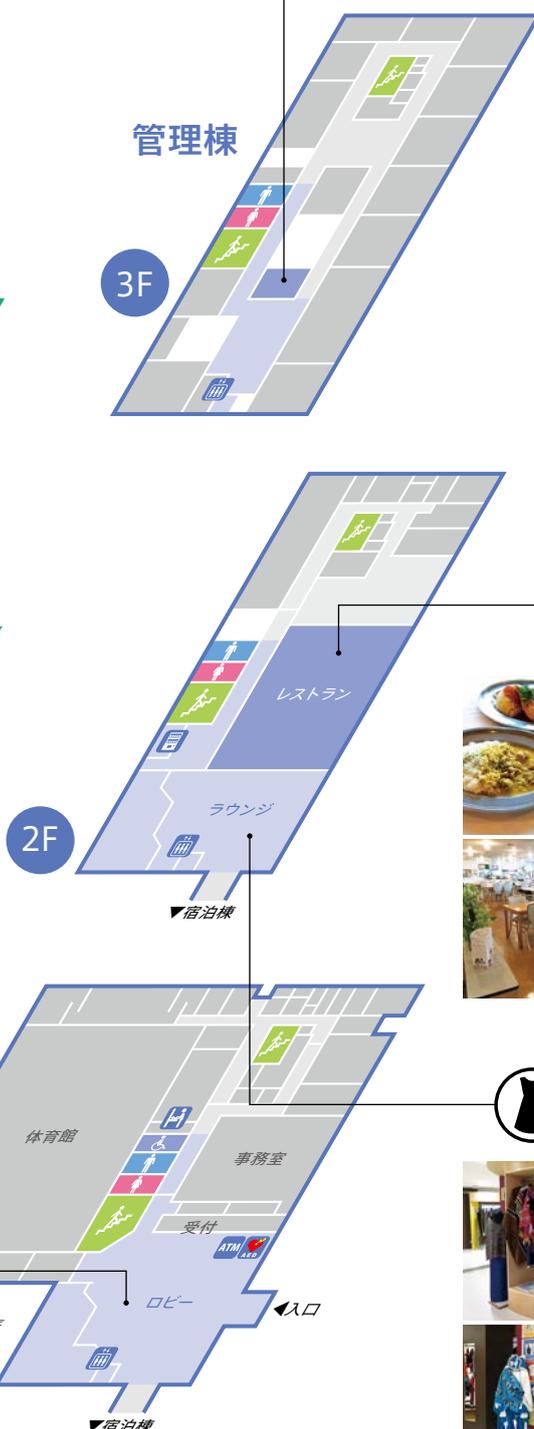
※詳細はJICA筑波HP図書情報室
 (<https://www.jica.go.jp/tsukuba/library/index.html>)
 をご確認ください。



研修棟



管理棟



管理棟 2F 食堂



管理棟2階の食堂では、年間100か国ほどの国・地域から訪れる研修員の食事情に合わせたエスニック料理を提供しています。

【昼食】12:00～14:00
 (ラストオーダー13:30)
 【夕食】18:00～21:00
 (ラストオーダー20:30)

管理棟 2F 民族衣装コーナー



写真パネルや、研修員から贈呈された民族衣装、民芸品、民族楽器などを展示しています。民族衣装の試着や楽器を手に取ることもできます。

【利用時間】10:00～17:00



アクセス

JR常磐線 牛久駅から

関東鉄道バス 西口4番のりば(約14分)
「高野台中央」下車 徒歩約8分

つくばエクスプレス つくば駅から

つくばセンターバスターミナル2番のりば
つくバス南部シャトル(約16分)
「理化学研究所前」下車 徒歩約5分

独立行政法人 国際協力機構 筑波センター (JICA筑波)

〒305-0074
茨城県つくば市高野台3-6
Tel:029-838-1111 (代表)
Fax:029-838-1119



茨城県と栃木県のJICA窓口 国際協力推進員

地域での窓口、JICAデスクとして国際協力推進員が両県の国際交流協会を拠点に活動しています。
お気軽にお声がけください。

JICA茨城デスク

〒310-0851
茨城県水戸市千波町後川745
県民文化センター分館2階
公益財団法人 茨城県国際交流協会内
Tel:029-241-1611 Fax:029-241-7611
jicadpd-desk-ibarakiken@jica.go.jp

JICA栃木デスク

〒320-0033
栃木県宇都宮市本町9番14号
とちぎ国際交流センター
公益財団法人 栃木県国際交流協会内
Tel:028-621-0777 Fax:028-621-0951
jicadpd-desk-tochigiken@jica.go.jp



JICA 筑波

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-6

Tel : 029-838-1111 (代表)

Fax : 029-838-1119

Website : <https://www.jica.go.jp/tsukuba/>

Facebook : <https://www.facebook.com/jicatsukuba/>

独立行政法人 国際協力機構 筑波センター (JICA筑波)



Website



Facebook